

地理空間情報産学官連携協議会 G空間EXPOに関するワーキンググループ(第8回)
及びG空間EXPO実行委員会(第8回) 議事概要

1. 日時

平成22年12月14日(火) 13時30分～15時30分

2. 場所

内閣府本府庁舎 地下講堂

3. 出席者

<産>

(特)ITS Japan
(財)衛星測位利用推進センター
(特)国土空間データ基盤推進協議会
gコンテンツ流通推進協議会
(社)全国測量設計業協会連合会
(財)地方自治情報センター
(社)日本建設機械化協会
(財)日本建設情報総合センター
(財)日本情報処理開発協会
(社)日本測量機器工業会
(社)日本測量協会
(財)日本測量調査技術協会
(社)日本地図調製業協会
(財)日本デジタル道路地図協会
日本土地家屋士会連合会
(社)日本ロボット工業会
マルチメディア推進フォーラム

<官>

内閣官房内閣参事官(内閣官房副長官補付)
内閣官房内閣参事官(宇宙開発戦略本部事務局)
内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付参事官
総務省情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室
経済産業省商務情報政策局情報政策課情報プロジェクト室
国土交通省大臣官房技術調査課
国土交通省総合政策局技術安全課
国土交通省国土計画局参事官室
国土交通省国土地理院企画部
環境省大臣官房総務課環境情報室

<官(独立行政法人)>

(独)情報通信研究機構
(独)宇宙航空研究開発機構
(独)産業技術総合研究所
(独)国立環境研究所

<学>

(社)地理情報システム学会
(社)日本地理学会

<オブザーバー>

国土交通省総合政策局情報政策課
海上保安庁海洋情報部技術・国際課
(財)日本水路協会

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議事

G空間EXPO開催結果報告について
G空間EXPO決算(案)について
来年度以降のイベント開催について
その他

- (3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

- (1) G空間EXPO開催結果報告について
事務局より資料1説明、質疑はなし。

- (2) G空間EXPO決算(案)について

事務局より資料2説明、質疑はなし。

決算案について了承された。

(3) 来年度以降のイベント開催について

事務局より資料3 - 1、3 - 2説明。

主な質疑応答

・(測技協)名称のサブタイトルについて、来年は「ビジネス」が使えるかもしれないが、別の年は何が入るのかの検討が必要になる。むしろG空間EXPO「2011」とか、「2012」とした方が良いのではないかと？

また来年度について、9月開催はやむを得ないが、開催日数について、(当協会の会員からは)平日の2日を希望している意見が多数あった。

(事務局)名称については、開催方針が決まった段階で、できるだけ分かりやすい名前を提示するので、ご意見いただきたい。

また、開催期間については、来年度は産側中心に行うことになれば、産側の意見を尊重する必要があると考えている。

・(事務局)開催日数が2日と3日で費用の違いについて、検討している最中だが、3日を2日にした場合に費用が3分の2になるということはない。

・(事務局)主催については、産官学の枠組みを残した方が良いとの意見もあったので、今回同様、G空間EXPO実行委員会を主体として、来年度も運営を進めていくことを提案する。なお、運営体制については、今後検討を進めていくこととする。

来年度は、パシフィコ横浜で、ビジネス層を対象とし、9月開催で了承された

・(事務局)開催日数については、こういった形が望ましいか、再度、議論をさせて頂きたい。また、開催曜日については、平日開催とさせて頂きたい。

・(事務局)再来年度について、今後のあり方も含めてご意見いただきたい。

(測技協)今年は、従来の地理空間情報フォーラムの枠にとらわれず、測量地図以外の業界が参加したのが非常に良かった。

世間一般にG空間をきちんと認識してもらい普及させるには、本検討会のメンバー構成を変えて、新しい枠組みで進めないとアイデアも生まれにくいのではないかと。また、機動的実務的な体制が必要だと思う。したがって、参加者の枠組みについても検討して欲しい。

(4) その他

・(事務局)次回はもう少し具体化して提案をさせて頂きたい。また、年明けあまり遅くならない時期にお集りいただく事を予定している。日程については、改めて連絡させて頂く。